

NPO 法人

小金井雑学大学

第 26 号 平成 31 年 1 月

だより

生涯学習の実践の場として

理事 五十嵐 京子

新年明けましておめでとう
ございます。

昨年は創立 20 周年を迎え、
これまでのことを振り返り、こ
れからのことを考える良い機
会となりました。小金井雑学大
学では講師の方を「教授」とお
呼びしますが、20 年間の間に
様々な教授の方をお呼びする
ことができました。ご縁をいた
だいて、ボランティアでは申し
訳ない有名な方にお出でいた
だいたこともありますし、人前



でお話しする経験も余りな
かった、という方にお話をして
いただいたこともあり、様々です。

大学で教鞭を取られたり、人
前での講演に慣れていらつし
やる方は安心してお任せでき
ることは確かですが、そうした
教授だけではなく、時には慣れ
てはいないけれど話をしてみ
たい方、特に独自の視点で勉強
されたことを披露したいと思
っていらつしやる方の実践の
場として小金井雑学大学を活
用していただくことも地域の
生涯学習推進の場の提供だと
思っています。

実際、そのような例はいくつ
かあります。時間配分や話の運
び方など十分に考えてこられ
てもなかなか思うようにいか
ないものであり、緊張もされる

ことと思います。それでも実践
を積み重ねることによって身
についてくることも多いです
し、何よりも最終的に一番の学
びは人に話すということでは
ないかと思えます。聴くことは
簡単でも話すことは自分自身
がしっかりと内容を把握して
いないとできないことであり、
それを聞いている人が分かる
ように組み立てなくてはなり
ません。さらに、講師となると
質問が来るわけですから、どん
な方面から来るかわからない
質問に備える必要があります。

そうしたハードルを越えよ
うとする意欲は、自分が興味あ
る知識への熱意であり、好奇心
ではないかと思えます。そうし
た意欲ある「教授」候補者を
待ちしておりますので、是非お
声をかけていただきたいと思います。
っております。

今年もどうぞよろしくお願
いいたします。

こんなに楽しい世界の歴史探索

元桐朋中高教諭・NHK高校世界史担当 綿引 弘



第 472 回講義 09 月 16 日

私は長年高校で世界史を担当してきた。誕生から現在に至る人類の歩みの総体が世界史であり、それは人類の歩みがぎっしり詰まった鉅脈に例えられよう。その鉅脈を掘ること、すなわち世界史探訪は人間の知的好奇心を刺激する実に楽しい営みである。ところが高校の授業は政治史を中心に経済史・文化史を織り交ぜたもので鉅脈のほんの一部に過ぎない。私は長年授業

で生徒にどうしたら楽しくワクワクした知的好奇心をもつて学んでもらえるのかに苦慮してきた。

そんな思いから昨年の雑学大学では「こんなに楽しい世界の歴史探訪」として、意外に知られていない史実「蒙古は北からやってきた」「琉球王国は南海の海洋王国であった」などをとりあげた。

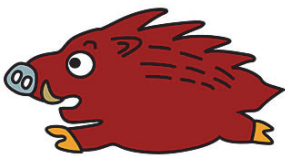
受講者の皆さんは高校で学んだ政治・経済・文化史の理解を土台にしたうえで、様々な視点・堀口からもつともっと楽しく人類の宝庫を学んで頂きたい。今私は次のような視点・堀口を考えている。

・東京オリンピックも近いので「スポーツ」の歴史

・オリンピックで世界中から観光客が来る「旅」の歴史
・食べ物の歴史では「瓶詰と缶詰」の起源
・日進月歩の「情報・通信」の世界史

・水中考古学から衛星考古学へ
・紋章と印象の世界史
・インフラ整備、道路の歴史など。

これらを見ると、まさに世界史の「雑学」そのものである。皆さんもご自身の関心あるテーマで鉅脈掘を試みられると、歴史を学ぶ喜びを味わうことができるでしょう。ともに大いに学びましょう。



「雑学だより」のバックナンバー(カラー版)は小金井雑学大学のWEB サイトでお読みいただけます。

小金井雑学大学



21 周年記念講演のお知らせ

「ポスト平成のグルメ展望」

横川 潤氏

(文教大学国際学部観光学科教授・食評論家)

3 月 17 日 (日) 14 時～15 時 30 分

■会場: 萌え木ホール (商工会館 3 階)

学びは最高のレジャーだ

日本語教師 稲富 利生

16万人の脳画像を見てきた

世界最先端の脳画像研究者第一人者、脳医学者東北大学加齢医学研究所教授 龍 靖之先生が語る

一日たった30分歩く程度で脳はイキイキする。

脳の最高の栄養素は知的好奇心。

脳の神経細胞は減っていくだけは間違いだった。

いくつになっても「海馬」の神経



第474回講義 10月21日

細胞は増える。

脳はトレーニングでどんどん変化する。

脳は何があってもあきらめない。

トイレに貼って音読をするように心がけています。

定年退職後65歳で大学に入學し2年生の時には1年間台湾の大学に交換留学生として学ぶことが出来た。台湾には今でもお付き合いしている友人が沢山出来ました。

一昨年は1ヶ月間、昨年は2ヶ月間ホームステイしながら日本語教師として台湾でボランティアした。学習者は50〜60歳の社会人の男女18人でした。ケベックでは昨年、今年1ヶ月ホームステイし英語とフランス語

を学んだ。

「訪れては去る月日に人それぞれ、心尽くし、力尽くし、何事かを刻み付けて。不十分か未完成か、けれど人間、知り得たもの、積み重なり喜び知る。思えば学びは人間が味わえるそれ自体贅沢のひとつ。望めば学びは誰にでも出来る最高の贅沢の一つ。」と小椋佳さんが書いた放送大学のイメー징ソングです。私はこの10月から放送大学に入學しました。

ガンジの言葉に「明日は死ぬつもりで生きなさい、ずっと死なないつもりで学びなさい」とあります。

これからも「一生青春一生勉強」で頑張ります。皆様も是非『最高のレジャー』を楽しんでください。

このような機会を与えて下さった「小金井雑学」大学の皆様に感謝致します。益々のご発展を祈念しています。

伝統行事の見える化の試み

理事 須知 正度

多摩地域等で継承されている伝統行事を通して、その意義を探る時に、目的達成への早道として次のような方法を用いています。

まず、その行事が実施される時期を「太陰太陽暦」（旧暦）に基づいて把握し、実施場所、登場人物は誰か？使用される道具等は何か？どのような姿形で、またどのような色や数等で表現されているか？を整理します。最後に、これらの事実に基づいて、「なぜか？」を推理します。



人生、初挑戦の講演を終えて

カフェ経営 佐伯 洋子

「学びは最高のレジャーだ！
(私の第2の青春)」というテーマで講演をさせて頂きました。
今は人生100歳と言われる時代です。それも踏まえてお話し致しました。

きっかけは松蔭大学の「シニア
枠新設」という新聞記事から始まり
ました。一般学生と一緒に

学べ、卒業時には学士号を得られ、
学費はなんと一般学生の三分の一
というシニア制度に魅了



第474回講義 10月21日

され入学致しました。四年間、
苦手なパソコン、外国語の講義、
ゼミと頑張り、その間、テレビ出
演や多くのメディアにも取り上
げられ、先生方、若い学生や留
学生との交流など思い出いっぱい
の大学生活を満喫し総代として
卒業できました。

卒業後はまた、大学との繋が
りが欲しい、そんな思いから大
学側と交渉して構内にカフェを
開設しました。コミュニケーション
の場として談笑しながらコーヒ
ーを美味しく飲んでいる光
景を眺めているだけで思いついて
やうて良かったとやがいを感
じています。第二の人生を叶え
てくれた大学生活を体験し学ん
だことは人生100歳時代のメッセ
ージになるかと思っています。経

験の積み重ねも大きな武器にな
ると実感し、これからも失敗を
恐れず新しいことを始めるのに
年齢は関係ないと考え、まだま
だ先のある人生に新たな課題を
課して自信を持って面白がつて
進んでいこうと思っています。

講演後、皆様からの励ましを
頂き、勇気が沸き「オカリナ」を
始めました。音感ゼロの私ですが
いつかカフェでご披露できたらと
夢んでいます。

今回の講義で小金井市との関
わりを持てたことも大きな収穫
となりました。

最後になってしまいました
松蔭大学からの繋がりで雑学大
学の長坂学長にこのような機会
を与えて下さったことに感謝申
上げます。



編集後記

雑学だより26号をお届けし
ます。今年度もすばらしい講
義が続きました。

理事 五十嵐の投稿にあり
ますように小金井雑学大学で
は講師をなさってくださいの方
を募集しております。そして
講師をなさってくれたら、ぜ
ひ来年27号の雑学だよりに寄稿
してください。講師をご希望の
方は会場での旨をお申し付
けくださるか、メールでご連絡
ください。

zatsugaku@

jcom.home.ne.jp

また、講師をしてくださる
方をご存知でしたらご紹介く
ださい。

事務局 田中 留美子

発行責任者 成瀬 傳